政策パンフレット

民主党
The Democratic Party of Japan

Manifesto・Uji
マニフェスト・宇治

～対話から始まる 思いやりのある まち～

2007.4～2011.3

民主党・宇治市会議員団

なぜ、マニフェスト？（※京都スタイルより）

言いっぱなし、任せっぱなし、やりっ放し。
これまでの「公約」は、「あれもこれも」の願望を並べただけの、
ただの意見表明に終わっているところがありました。
つまり選挙公約は努力目標であり口約束の域を超えません。
そして責任も取りません。

これに対して「マニフェスト」は、市民の参加、わかりやすい目標と手だて、
あとでチェックし反映できるしくみ、を兼ね備えた体系的で具体的な政策によって、
住民のみなさんと交わす契約です。

マニフェストって？（※京都スタイルより）

宣言、宣言書の意味のイタリア語。英語でもmanifestoという。
イギリスのブレア労働党党首が、政権公約として使い始めたことにより一般化したが、
普通「共産党宣言」もしくは「綱領」を指す。

1998年の統一地方選挙頃から作られるようになった、一種の公約。
従来の日本の選挙公約とは異なり、何を（具体的施策あるいは目標）、
いつまでに（期限）、どれくらい（数値）やるかということを明示することによって、
選挙民と立候補者の委任関係を明確化したもの。

作成・活用に関しては、北川正恭・前三重県知事が有名。
2003年総選挙に向けては民主党が早々とマニフェストの作成を宣言し、他党を挑発。
自民党も作成することとなった。
マニフェストについては賛否両論ある（参照google:マニフェスト）。
なお現在の意味が広まる前、日本で「マニフェスト」と言えば「共産党宣言」のことだった
（これはドイツ語のManifestに由来する）。

※参考資料　民主党マニフェスト「パーティー・マニフェスト」
（http://www.dpj.or.jp/seisaku/sogo/BOX_SG0062.html）
民主党府連マニフェスト「京都スタイル」
（http://www.dpj-kyotostyle.net/main.html）

いま、宇治を取り巻く状況

宇治の、誕生～成長期～成熟期といった過程は、
日本の縮図と言えるほど標準的なものです。
つまり、各地で発生している課題や問題は、宇治でも同じように起きています。

●日本では、今、何が問題なのか？

○ 経済格差が広がったことにより、社会全体にさまざまな「ひずみ」が生じています。
○ 人口減少時代の到来が現実のものとなっています。・・・超高齢・少子化社会
○ 財政危機に起因する地方分権（主権）への大きな流れが始まっています。
○ 人間力（自ら考え行動する、人として生きる力）が低下しています。
　行き過ぎたIT社会の弊害と匿名性による無責任な言動や当事者意識の希薄さは
　人間力低下の大きな要因です。

●宇治を取り巻く環境の変化とは？

○ 高齢化と価値観の変化で、宇治らしい古き良き地域コミュニテイが衰退しています。
○ インフラ整備（道路・下水道など）の遅れ、昭和30年・40年代の民間主導の
　乱開発により、多額の公共投資が必要となっています。
○ 公共施設の再整備が必要な時期になっています。
　急激な人口増に対応したために、建設時期が集中しており、
　その時期に建設された建物は、同時に耐震改修と老朽化による建替えに
　迫られている為、多額の財源が必要となっています。
○ 市町村合併問題・・・後世に憂いを残さないために論議を尽す必要があります。
○ 投票率の低下
　政治への不信からなる期待感の喪失で、市民の関心が高まりません。

このように列挙すれば、多くの課題や問題点ばかりが目に付きます。
しかし、誇るべき素晴らしいものが沢山残っているのも、我がまち『宇治』です。

この素晴らしい宇治のまちを、子どもたちに残すことは
私たち大人に課せられた重大な責務です。

これから、宇治がめざすもの

国・地方の借金の合計は770兆円とも1000兆円を超えたとも言われています。
このような厳しい財政状況では、市民の要望全てを叶えることは出来ません。
つまり、新しい事業に取組めば、我慢しなくてはならない事業が出てきます。
必要なことは優先順位を決めるシステムであり、徹底した情報公開に基づく対話です。

『あれも　これも』 から 『あれか　これか』 へ

市民が健やかに宇治市で住み続けるためには、一人ひとりの顔が見える
地域コミュニティの再構築と「安全・安心」のまちづくりが求められています。
また、「自立と共生」社会の実現には、「努力が公正に評価される」システムも必要です。

『対話からはじまる　思いやりのある　まち』

●住民と手をつなぐ

毎年1回以上の市民フォーラム（タウンミーティング）を開きます。

市民自らの想いがかなう「まちづくり」を目指し、私たちは『説明責任』を果たす事で、
手と手をつなぐ『真のパートナーシップ』の実現と、絆を結ぶ、
「命輝く宇治」をつくっていきます。
それは独りよがりではなく、思いやりの心で共生することであり、その結果自立を促し
新たな人間関係を構築するものとなります。

●社会と結びつきを深める

それぞれの政策テーマごとに関係者や専門家と連携するネットワークをつくります。

これから団塊世代の大量退職時代を迎えますが、よく見れば宇治は人財の宝庫でもあります。
この方々のキャリアが活かせるシステムづくりが急務になっています。
また宇治市内及び京都府下には、沢山の大学や研究団体があります。
本市の現状やこれからの課題を各種団体と連携をとりながら協働で取り組むことによって、
多様化・高度化した市民ニーズに論理的にも応えることが可能になります。

●行政に働きかける

議会での発議や質問・調査など、行政のチェックを積極的に行い、住民と情報を共有します。

政治は生活であり、政治でしか解決出来ない課題や問題がたくさん有ります。
宇治の問題を宇治で解決するには、議会の働きは重要です。
市民参加は行政に限ったことではなく、議会においても積極的に取組む必要があります。
具体的には、政策作成過程から市民に関わって頂くことによって、
初めて開かれた議会であると言えます。

市民協働参画社会の実現

「民主的で、自立した　まち」・「思いやりと、包容力のある　まち」にするには、
市民が市政や地域課題に積極的に関わっていただくことが必要です。
その為のシステムづくりに取り組みます。

そうしてはじめて、宇治のまちは元気であり続けることが出来ます。

●NPO（特定非営利活動法人）やコミュニティビジネスを支援・育成します。

地方分権の流れの中、行政が全てを行なえる時代ではなくなっています。
「自立と共生」社会の実現は、行政と市民との役割を明確にして、
地域課題については、住民自ら解決していくという取組みも必要です。
その為の支援とシステムづくりが、公の仕事だと考えています。
指定管理者制度の活用状況の検証と改善（見直し）に取り組み、
市場化テストを積極的に導入します。

●パブリックコメント等、市民からの意見を施策へ反映するシステムを創ります。

意見を言っても施策に反映されるのか分からない。
意見聴取は形式を整える為だけではないか？ などの不満を聞きます。
政策をつくる初期の段階から、あるいは政策の必要性の有無の段階から
意見が言え、反映出来るシステムを創ります。

●団塊世代の地域活動への参画を促進します。

現実のものとなった2007年問題（団塊世代の大量退職問題）。
地域の一員として、キャリアが生きる地域活動を支援します。
生涯学習をより意義のあるものとするために、人財のネットワーク化と
生きがいづくりに取組みます。

教育の再生

時代の変化と共に、公教育のあり方は常に問われています。
教育は、国の根幹をなすものであり「国家百年の計」として位置付けられるものですが、
国の度重なる方針変更により、地方自治体は一方的に翻弄させられています。
しかし、宇治には宇治の文化があり、歴史があります。
まず公教育の本質・意義について、しっかり対話（論議）することから始めます。

●安全・安心な施設づくりに取組みます。

◎ **子どもに関わる各施設に緊急通報装置を設置します。**
○ 建築基準法に定めた数値以下の建物の耐震化を進めます。
○ 広域避難場所としての機能を見直します。
○ 誰もが集える学校施設を目指し、バリアフリー化に取組みます。

●食事の大切さを教えます。

本来家庭で行うべきものではありますが、家庭力低下の中子どもの健康づくりは優先すべきと考えます。
◎ **学校給食の食べ残しを半分にします。**
○ 中学校の昼食は、食育の観点から見直します。

●親子での読書を推進します。

◎ **小・中学生の年間読書目標を小学生100冊、中学生50冊とします。**
○ 読書環境を充実させ、学校図書館の蔵書を学校図書館基準に近づけます。
○ 公立図書館の蔵書も含め図書のデーターベース化に取組みます。

●学校の緑化に取り組みます。

○ 地球温暖化対策として、校庭の芝生化や屋上緑化に取り組みます。

●公教育の本質は、学力と心の教育（生きる力）です。

○ まず、教育の基本となる教師の信頼回復を目指します。
○ いじめなど、心が病んでしまうような関係をつくらないよう、
人と人のつながりを絆として受け入れられる人間形成を目指します
○ 小中一貫教育の早期実現を目指します。

●家庭力向上を目指します。

○ 子どもが、心おきなく安心して安らぐために戻ってくる場所が家庭です。
どんな小さなSOSも見逃さない、子どもから逃げない為の親教育を行ないます。
○ 宇治で生まれ育った子どもたちが、これからも住み続けたいと思えるまちづくりこそが
重要であり、子どもは社会の子、地域の子として、みんなで育てていかなければなりません。
そのためには、学校は誰もが集える、地域の「居場所」として適切に機能し、
地域の課題を包括出来るコミュニティとして認知できるよう取組みます。

議会改革

『議会は市民の代表である』という原点から、市民参加型の議会に改革します。

市民が、議会に望むものは何か、ということを対話によって知り協働して問題解決に取り組み今の時代に相応しい議会にすることが必要だと考えています。

宇治市議会では、過去いくつかの改善が行なわれてきました。
2006年9月定例議会では、36年ぶりに議員定数削減（2名減）も行なわれました。
しかし、削減に至る過程で市民との対話・説明不足という反省があります。

議員・議会の役割とは？

市政（行政）のチェックと条例の作成（政策能力）が議会の大きな役割ですが、
今の議会のあり方（議論の方法や議員報酬）では限界があります。

議会を活性化するには？

議会・議員がその責務を果たすには、支援体制の強化が不可欠です。
その際大きな力となるのは議会事務局ですが、現在の組織では物理的に困難です。
議会事務局の役割と事務事業の見直しを行ない、再構築を図ります。
また、議会が市政（行政）のチェックを行なうのと同様、議会は市民に評価して
いただかなければなりません。
そのためには議会をチェックする第三者評価システムを作る必要があります。

●議会を第3者が評価出来るシステムづくりに取り組みます。

○ 議会審議の様子をインターネット・テレビ等により放映します。
○ 議会モニター制度を導入します。

●現条例の見直しを前期2年で行ないます。（2007.4月～2009.3月）

●『対話から始まる 思いやりのある まち』づくりに必要な条例をつくります。

（参考）市民自治基本条例・・・四日市市市民基本条例をモデルとして
まちづくり条例・・・ニセコ町のまちづくり条例をモデルとして

これからの道筋

議員のつくるマニフェストは、首長のつくるマニフェストと異なり、財政面での裏づけが弱く、どうしても限定した分野での項目や内容になってしまいます。
しかし、議員になるからには、誰もがこのまちを良くしたいと考えています。
その想いを結集出来れば、より具体的な形で議員としての責務を全う出来ます。

では、市会議員4年の任期で、どのような手順で目的を達成していくのかといいますと次のような活動が考えられます。

議会での活動	市民との協働、具体的な活動
・一般質問・委員会質疑	・市民フォーラム
・予算要望	・街宣活動
・議員発議	・インターネット、メディアへの発信
（条例制定・改正、意見書、決議 ）	・陳情、請願、要望書

●私たちはひたむきに取り組みます。

【民主党・宇治市会議員団 】

矢野友次郎
宇治市議
府連常任幹事

井 出　弘
宇治市議
府連幹事

西川 博司
宇治市議
府連幹事

長谷川雅也
宇治市議
府連幹事

田中美貴子
宇治市議
府連幹事

平田 研一
宇治市議
府連幹事

●私たちも共に取り組みます。

松 峯　茂
前宇治市議
府連幹事

石田 正博
府連幹事

小牧 直人
宇治市議
民主党友好議員

●私たちも応援します。

山 本　正
京都府会議員

山井 和則
衆議院議員

福山 哲郎
参議院議員

松井 孝治
参議院議員

～あとがきに代えて～

今回作成した「マニュフェスト宇治」は、生活者起点の政策を第一義として作成しましたが、民主党京都マニフェスト「京都スタイル」との関連づけ、さらには作成に当り皆さまのご意見を広く伺い反映出来なかったことを大きな反省点として、今後の活動に活かしたいと考えています。

お問い合わせ
民主党京都府宇治支部
〒611-0043 京都府宇治市伊勢田町砂田67-10
TEL.0774-22-8303 FAX.0774-25-8278
政策担当：ひらた研一（hirata@wao.or.jp）

民主党

The Democratic Party of Japan